

世界初の植林によるCO₂クレジットの取得について

住友化学は、このたび、世界銀行の「バイオ炭素基金（バイオカーボンファンド）」が支援するプロジェクトのうち、「ブラジルにおける工業利用向け再生可能木材供給源としての再植林」プロジェクトから発生する「CO₂クレジット※¹」を他の出資企業とともに取得いたしました。これは、「京都メカニズム※²」の「グリーン開発メカニズム※³」のうち、世界で初めて「植林」分野から得られた「短期期限付きクレジット※⁴」で、当社の今回の取得量は約5万トン分となります。

「バイオ炭素基金」は、森林保全、植林などのプロジェクトに投資し、CO₂クレジットを獲得することを目的に、世界銀行が2004年5月に設立した基金です。この基金は、京都議定書で定めた「京都メカニズム」のうち、途上国を対象とした「グリーン開発メカニズム」を活用しており、現在、12カ国で14プロジェクトを支援しています。住友化学は、途上国、貧困国等における植林などのプロジェクトに資金を提供することにより、荒廃した土地の回復や水資源の保護、生物多様性の保全、温室効果ガスの削減に貢献する目的で、2005年から「バイオ炭素基金」に参加しています。

住友化学は、化学技術の革新を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを経営の最重要課題の一つと位置付け、生産効率化や環境保全などのさまざまな活動に取り組んでいます。こうした取り組みに加え、「バイオ炭素基金」などの仕組みも活用しながら、引き続き地球温暖化防止や、途上国などにおける地域社会の環境改善に貢献してまいります。

※1 CO₂クレジット

温室効果ガス削減を目的としたプロジェクトを実施し、その結果生じた削減・吸収量に応じて発行される排出権のこと。

※2 京都メカニズム

温室効果ガス削減をより柔軟に行うために京都議定書で制定された経済的メカニズム。他国での削減実施に投資などにより参加し、削減された量またはその一部が自国の排出削減量として認められる国際的な仕組み。

※3 クリーン開発メカニズム（Clean Development Mechanism（CDM））

京都メカニズムの1つで、先進国が途上国と協力して、再生可能エネルギープロジェクトやエネルギー効率改善プロジェクトなどの温室効果ガス削減を目的としたプロジェクトを行い、削減・吸収された量に相当するCO₂クレジットをプロジェクト参加者間で分け合う仕組み。

※4 短期期限付きクレジット

新規植林・再植林 CDM で取り扱われる CO₂ クレジット。木に吸収された CO₂ は、森林火災や害虫による枯死等によって大気中に再放出される可能性があるため、通常のクレジットと異なり、有効期限が設けられている。

【ご参考】当社が出資する「バイオ炭素基金」プロジェクト一覧表

実施国	名称	
アルバニア	アルバニア荒廃地における自然再生支援	
ブラジル	ブラジル、サンパウロ州におけるAESティエテ植林/再植林プロジェクト	
ブラジル	ブラジルにおける工業利用向け再生可能木材供給源としての再植林	
中国	広西珠江流域管理のための再植林促進プロジェクト	
コロンビア	サン・ニコラス炭素吸収源及び樹木種回復プロジェクト	*
コロンビア	カリビアンサバンナ炭素吸収源プロジェクト	*
コスタリカ	FONAFIFOコープアグリプロジェクト	*
エチオピア	フンボ エチオピア自然再生支援プロジェクト	
インド	アグロフォレストリーをベースとした環境に優しい技術による炭素固定化を通しての農村生活の改善	
ケニア	アバデア山脈/ケニア山 小規模再植林イニシアティブ	
モルドバ	モルドバ土壌保全プロジェクト	
ニカラグア	南ニカラグアCDM再植林プロジェクト	
ニジェール	アラビアゴムノキ植林プロジェクト	*
ウガンダ	ウガンダ・ナイル流域再植林プロジェクト	

（今回CO₂クレジットを取得したプロジェクトを網掛け）

*国連未登録

以上